

たのしくあそぶまちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tam tam

2026.3
VOL.39

母波市市民活動支援センター



これからの市民プラザへのメッセージを持って、参加者全員で集合

みんなでつくり、育てる市民プラザ 6年間を振り返る「プラザ市民会議」開催



これまで取り組んできた各事業の様子

特集

つながりの現在地を確かめ、
2030年へ

参加者 インタビュー

中村伸一郎さん
(NPO 法人スマイルポケット 代表)

これからの 市民プラザへ

学びとつながりが循環する地域へ

つながりの現在地を確かめ、 2030年へ

56名が参加した「プラザ市民会議」では、3年間の歩みを振り返りながら、これからの5年への思いを語り合いました。それぞれの発表と対話を通じて見えてきたのは、「こちゃまぜ」が生み出す力と、つながりがもたらす地域の可能性です。「市民プラザのことを知っているようで、知らなかった」、そんな気づきもありました。活動の深さと広さ、そして市民の熱量に触れながら、さらに誰もが集える場へ。つながりが幸せに変わる瞬間を、参加者とスタッフで確かめました。



▲それぞれのつながりで集まった多様な参加者

3年間の成果と

市民プラザのこれからを語り合う

2026年2月7日(土)、市民プラザにて「市民プラザと市民活動支援センターをよりよく・楽しくする市民会議(通称プラザ市民会議)」を開催しました。参加者は、開設当初からつながりのある方からこの1年でつながった方、市民プラザの事業を広くフォローしてくださる方から地域の現場を中心に関わる方など、多様な56名(講師・スタッフ含む)。総合コーディネーターには、3年前の同イベントでもコーディネーターを務めた谷口知弘氏(福知山公立大学地域経営学部教授)を迎え、2025年目標の最終年度として、この3年間の歩みを丁寧に振り返りました。

運営者からの活動報告では、市民活動支援センター、男女共同参画センター、氷上子育て学習センター、市民プラザそれぞれの取り組みが共有されました。住民主体の地域づくり支援、学びが実践へと循環する講座やプロジェクトの展開、多様な主体との連携の広がりなど、拠点としての機能は着実に厚みを増しています。市民・NPO・企業・行政を結ぶ「潤滑油」としての中間支援機能も磨かれ、対話を通じて学び合う力や、地域の未来を自ら描く実践知が蓄積されてきました。「こちゃまぜ」というコンセプトは、異なる世代や立場が交わることで新たな挑戦が生まれる土壌として、少しずつ日常の風景になりつつあります。

一方で、多様な事業が知れ渡っていないかったり、利用者に偏りがあったりと認知の広がりや心理的ハードルという課題が示されました。「知っているつもり」と「実際

に関わること」の間には、まだ距離があります。

グループワークでは、「Keep(続けたいこと)」「Problem(課題)」「Try(挑戦)」の視点から意見が交わされ、「用事がなくても立ち寄れる雰囲気づくりや安心感」、「SNS発信の強化」、「地域へ向く講座の展開」など具体的なアイデアが生まれました。

市民プラザは今、「知る人ぞ知る場所」から「誰もが混ざり合えるハブ拠点」へと進化する分岐点に立っています。単なる公共施設にとどまらず、人と人、人と地域を結び、学びや経験、思いが巡る「地域資源循環の要所」としてどう成長していくのか。その方向性を共有し、次の5年間への確かな一歩を踏み出す対話の時間となりました。



▲それぞれの発表をまとめたグラフィックレコーディング(一部)



中村 伸一郎さん

(NPO法人スマイルポケット代表)

これからも

学びと人との出会いに期待

スマイルポケットの代表を務める中村さんは、生活困窮や障害、病気などさまざまな困難を抱える子育て世帯を支える活動に取り組んでいます。毎月約40世帯へ食材や物資を届け見守りを行ったり、拠点施設での交流イベント開催など、誰もが安心して暮らせる地域づくりに奔走しています。

現在の活動を法人化する際には、市民活動支援センターへ相談に訪れました。また、事業計画の立て方や仲間を広げるコツなどの講座にも参加し、経営に直結する学びが活動の土台になったと言われ、ボランティアや地域企業とも連携しながら、地域の中で支え合う仕組みづくりを進めています。中村さんはこれまでの市民プラザ、市民活動支援センターに対して「これほど多様な人が集まる場は貴重。自分のネットワークだけでは得られない」想

定外の出会い』に刺激を受けてきた。今回の「プラザ市民会議」においても、ちゃんと話したことがない人と話すことができた」と振り返ります。

これからの市民プラザについて、中村さんはさらなる「ハブ機能」に期待しています。市民、活動団体、行政の繋ぎ役であり、地域の課題に向き合う人たちが出会い、支え合える拠点としての可能性を感じています。「スタッフの顔が見え、親しみやすい運営も良いところ」と語られました。中村さん自身も2026年4月から「兵庫」でも食堂ネットワークの丹波エリアの代表に就任する予定です。これまで以上に人と人とのつながりを大事に、誰もが暮らしやすい地域づくりの活動は続きます。



▲メッセージを寄せる中村さん



▲願いの実現のために活動した小学生



▲フロアいっぱいに広がってトーク

「ごちゃまぜ報告で語られた

「居場所としての市民プラザ」

「ごちゃまぜ報告で語られた15名の報告者の声は、そのままグラフィックレコーディングとして会場に描き出されました。カラフルな吹き出しの中に並んだのは、報告者自身の実感です。「活動の種まきができた。一人ではできないことができた」、「いろんな人が関わり、いろんな経験ができた」、「市民プラザは行政との橋渡し役であり、情報を得られる場」、「センターに立ち寄ると活動のヒントを得られる」。活動の当事者だからこそ出てくる言葉には重みがあり、市民プラザが単なる活動拠点ではなく、「安心して挑戦できる居場所」であることが可視化されていました。

また、「これからも地道に活動を続けてほしい」、「長期視点で持続していく活動のサポートを今後も期待している」といった今後に向けた言葉も共有されました。ごちゃまぜに交わることで、自分の活動が広がり、思いがけない協働が生まれる。その体験が、「ワクワク」という言葉となって何度も報告されました。

単なる貸館施設ではなく、「居場所」としての信頼が育つていくことが伝わってきます。活動の深さに驚く声と同時に、「もっと知ってほしい」、「初めての人の一歩を応援したい」という未来志向の言葉も多くありました。多様な人が「ごちゃまぜ」に出会い、思いが交差することで、新しい挑戦が生まれる。その瞬間こそが、市民プラザの価値だという共通認識が見えてきました。

「こちゃまぜ」と多様なつながりが 生まれる市民プラザに

「プラザ市民会議」では、3年間の報告を受け、市民プラザへの「新たな気づき」と、これからの市民プラザへのメッセージ」を参加者同士で紹介し合いました。参加者から、「知っているつもりでも活動の二割ほどしか知らなかった」という声があり、市内には思いを持って活動する市民が想像以上に多く、その多様さと深さに改めて気づいたという意見もありました。また、市民・NPO・企業・行政など多様な主体が交わる「こちゃまぜ」の場だからこそ、新しい出会いや挑戦が生まれていることへの発見もありました。

これからの市民プラザに対しては、人と人、人と地域、地域同士を結びつける「ハブ拠点」としての役割への期待が多く寄せられ、行政と市民をつなぐ橋渡し役として地域づくりを支える存在であり続けてほしいという声がありました。また、誰もが気軽に立ち寄れる「入りやすさ・使いやすさ」を大切に、SNSの活用や地域に出向く取り組みなどを通じて、より身近な場所であってほしいという意見もありました。来館する理由の一つに「市民プラザのスタッフに会うため」を挙げる参加者もあり、信頼関係を大切にしたい居場所であること、そして多様な人が出会い、ワクワクする新たな一歩が生まれる「こちゃまぜ」の場への期待が寄せられました。

人と人とのつながりが生きがいや幸せにつながる——この実感を大切に、市民プラザはこれからも地域のつながりを育む場として歩み続けていきます。



▲こちゃまぜになって、みんなの気付きを共有

これからの市民プラザへ

学びとつながりが循環する地域へ

「プラザ市民会議」では、参加者とスタッフの対話を通じて、市民プラザが目指す地域の姿を4つに整理しました。

市民一人ひとりの知識や経験が、団体や地域の活動で活かされることで助け合いに変わり、世代を超えて受け継がれる学びとして循環する

「学びが暮らしと地域で循環する地域」

関わりたいときに関わられる分だけ、性別や世代、関心の度合いに関わらず、誰もが一歩を踏み出せる多様な入口がある

「多様な人が、無理なく関わられる地域」

違いを前提に合意をつくる「対話の文化」が地域に根付き、課題を自分ごととして捉え、自ら考える力を持つ市民が生まれる

「対話を通じて自ら将来を描ける地域」

市民の提案が、市政や地域活動に反映される実感を創り出し、また、人・知恵・お金などの資源が必要な場所へ巡る「地域資源循環」が機能する

「声が届き、資源が循環する地域」

「学びとつながりが循環する地域」を、市民プラザはこれからも市民の皆さんとともに育んでいきます。そして、2030年にその姿の実現に近づけたかどうか、市民の皆さんとともに振り返り、さらにその先を展望できる機会を楽しみにしています。

2025年度をもって特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構による丹波市市民プラザ・丹波市市民活動支援センターの運営は終了となります。これらの目標と役割を次の運営者に引き継ぐとともに、読者の皆さまへの感謝を申し上げ、tamtam39（サンキュー）号を締めくくります。これまで本当にありがとうございました。



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館